

## 血ノ川におけるアサザ群落の拡大

高橋 久・川原奈苗

河北潟湖沼研究所

〒920-0051 金沢市二口町八58

**要約:** 河北潟に注ぐ小河川である血ノ川において2003年にアサザの群落の著しい拡大が見られた。アサザは血ノ川の中流部のほぼ全域に広がって生育し、開花も確認された。しかし花序は短花柱花のみであり、単一のクローンの可能性もあった。血ノ川の河川改修にあたり、自治体による保全措置がとられたこともあわせて報告した。

**キーワード:** アサザ, 河北潟, 血ノ川, 生育地の拡大, 水草の保全

### はじめに

アサザ *Nymphoides peltata* は、環境省レッドデータブック（環境庁自然保護局野生生物課, 2000）の絶滅危惧 類および、石川県レッドデータブック（石川県環境安全部自然保護課, 2000）の絶滅危惧 類に挙げられている、絶滅が憂慮される水草である。県内では、河北潟（永坂, 1997）の他、木場潟や柴山潟において記録されている（西谷・他, 1981）。河北潟地域においては、西部承水路（高橋・他, 2003）や周辺の水路やため池で散見されるものの（高橋・他, 未発表）、それぞれの群落の生育状況は決して良好なものとはいえない。

そのような中で、2003年に金沢市木越から大浦町を流れる血ノ川において、顕著なアサザ群落の拡大が確認されたので報告する。

### 確認状況

血ノ川は河北潟の南部に位置し、金沢市今昭町から千田町にかけての農業用水路に始まる平地のゆるやかな流れの小河川である。上流部の約1.5km区間は、幅3m以下の矢板護岸の用水路

となっている。その後川幅を拡大し、下流部ではおよそ幅15mの両岸を矢板護岸が施された川となって、北上し河北潟に至る。全長3kmあまりの流路となっている。途中で全長1kmほどの馬渡川と合流する（図1）。

日本へら鮎釣研究会の河合雄二氏の情報提供により、2003年5月10日に血ノ川を訪れ、同川と馬渡川の合流部の前後に比較的大きなアサザの群落が生息しているのを確認した。このときアサザ群落の近くで河川改修工事を実施していることも確認された。6月1日には、血ノ川の流路の広域にアサザが点々と群落をつくっているのを確認した。このときは花序をつけているところは観察できなかった。6月24日に現地を訪れ、複数の群落において開花を確認した。花のタイプはいずれも短花柱花であった。

ほぼアサザの群落の成長が最大に達したと思われた9月27日に、詳細な群落の分布の記録をおこなった（図2）。河口付近にひとつの群落が孤立してみられる他に、中流部の約300mの区間に大きな群落が4つ確認された。全体として、2003年における河北潟周辺での最大の自生地であることが確認された。



図1. 河北潟と血ノ川の位置.

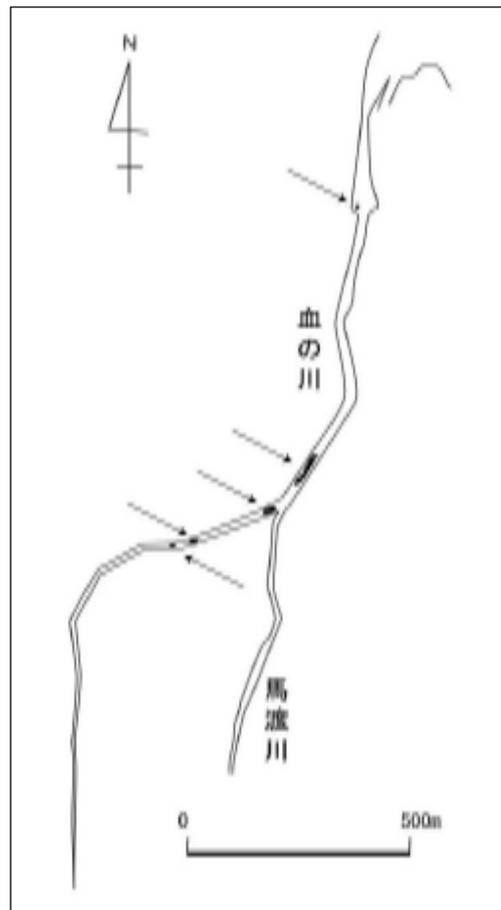


図2. 2003年9月27日現在の血ノ川におけるアサザ群落の分布. 主な群落の分布を黒塗りと矢印で示してある.

### アサザ発生の経緯と要因について

現在まで、血ノ川において水草の分布状況についての文献上の記録は見あたらない。筆者らもこの川については、日常におこなっている河北潟地域の生物相調査の中で何度か観察しているが、水草についての確認記録は残っていなかった。したがって過去の水草の正確な生育状況は不明であるが、これまでの調査の記憶や住民からの聞き取りをおこなった結果からは、数年前までは、血ノ川において目立ったアサザの群落は確認されておらず、この2,3年の間に目立つ群落が出現するようになったものと思われる。

石川県金沢農林総合事務所によると、血ノ川の下流部において平成8年に川幅の拡張工事がおこなわれ、平成12年には河口域の浚渫が実施

されているという。この川の河口には強制排水用のポンプが設置されており、河口の川幅の拡張と浚渫によって、強制排水の際にそれより上流域の底泥の移動が起こった可能性が考えられる。こうした底泥の移動により、アサザの発生条件が整った可能性も考えられる。

こうした状況からは、底泥中で休眠していたアサザの種子が発芽して群落に成長したのではないかと期待される。しかし、血ノ川のアサザでみられた花序はいずれも短花柱花であり、河北潟地域の他の地点で確認されているタイプと同じであった。またこのアサザ群落

については、東京大学大学院生の上杉龍士氏により遺伝的解析がおこなわれており、東部承水路付近で確認されているアサザの群落と同一クローンである可能性が示唆されている(上杉氏からの私信)。したがって、血ノ川のアサザ群落は、泥中の種子が何らの要因で発芽して実生となりそれが拡大したしたものではなく、もともと血ノ川にある程度のクローンの群落が残っていた可能性、または周辺のクローンが何らかの要因で血ノ川に入り込んだ可能性が高い。

### 保全に向けた活動

2003年より血ノ川では河川改修工事がおこなわれている。内容としては川幅を広げ両岸に矢板護岸を施すと同時に、浚渫を実施して浅くなった川底の水深を確保するというものである。事業主体の県金沢農林事務所へ申し入れをおこなったところ、アサザ群落を残すように工事をおこなうこと、浚渫にあたっては群落の場所を避けることとするとの回答を得られた。実際に注意深く浚渫はおこなわれ、浚渫が終了した2004年2月現在、ほとんどのアサザの群落が取り除かれることなく越冬しているのが確認されている。また、今後この川においてアサザの保全をおこなうことを記した看板が設置される予定となっている。

血ノ川のアサザはクローンの可能性が高く、また血ノ川の河岸はすべて垂直な矢板護岸となっているため、現状においては血ノ川のアサザは健全な状態であるとはいえない。また、仮にクローンでないとしても、実生が育つことができる湖岸がないため、アサザの世代交代を保障する生育環境となっていない。血ノ川におけるこうした不健全な状態でのアサザの保全は、一時的あるいは避難的な措置であると考えべきであり、将来的には、埋土種子の発掘と育成、実生が育つことのできる移行

帯を持った水辺の造成といった方向に、保全活動が向かうことが望まれる。

### 謝辞

アサザの生育の情報を提供いただいた日本へら鮎釣研究会河合雄二氏に、厚く御礼申し上げます。また、血ノ川についての情報をいただいた、石川県金沢農林総合事務所のご協力に感謝いたします。

### 引用文献

- 石川県環境安全部自然保護課．2000．石川県の絶滅のおそれのある野生生物 - いしかわレッドデータブック〈植物編〉．  
環境庁自然保護局野生生物課．2000．改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 植物 ．  
永坂正夫．1997．河北潟の水生物の現状．河北潟総合研究．1：3-8．  
西谷朗・高木政喜・笹木幸夫・北清治．1981．石川県の池沼における水生植物．「石川の自然第5集 生物編(3)」．石川県教育センター編．p.1-41．  
高橋久・永坂正夫・白井伸和・川原奈苗．2003．河北潟西部承水路の水生物の現状 - 在来種の衰退とホテイアオイ *Eichhornia crassipes* の大繁殖について ．河北潟総合研究．6：27-39．

### 追記

原稿の校正作業をおこなっている段階の2004年3月10日に現地での状況の確認をおこなったところ、これまで調査をおこなってこなかった、上流域の幅約3mの単調な水路となっている場所で、アサザの越冬株からなる群落が確認された。民家と道路に挟まれて、人工化が進んだ場所

あったため、これまで十分な調査をおこなってこなかった場所であった。この地点で長い間アサザが生き延びていて、近年群落の一部が下流に流れ、血ノ川での2003年の大規模な発生につながったことも考えられる。